令和７年７月１日

第２５３号

関東の森林から

国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町４－１６－２５
TEL.027－210－1158
https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/

【写真】「武尊牧場のレンゲツツジ（写真提供：片品村役場）」（利根沼田森林管理署）

◎ 大井川流域の治山事業の歩み　大井川治山センター　・・１
◎ 令和７年度山地災害防止キャンペーンの実施について　治 山 課　・・３
◎「第７５回全国植樹祭」の開催について　埼玉森林管理事務所　・・４
◎ ぐんまフォレスター連絡会　技術交流会
「デジタル技術のフル活用で林業イノベーション」を開催
群馬森林管理署　利根沼田森林管理署　吾妻森林管理署　・・５
◎ 森づくり最前線　日光森林管理署 日光森林事務所 首席森林官　櫻井崇裕　・・７

大井川治山センターは、以前から民有林直轄治山事業を実施していた井川地区と、川根本町に在る民有林の榛原地区を平成 13 年度より新たに追加し、発足いたしました。

1．はじめに

「箱根八里は馬でも越すが、越すに越されぬ大井川」と詠われた大井川は、南アルプスの標高3,000m級の山々に源を発し、静岡県のほぼ中央部を縦貫し、駿河湾に注ぐ流路延長 168km、流域面積 1,280 ㎢の大河川です。

源流部は、間ノ岳、塩見岳、赤石岳等の日本百名山に選ばれた名峰がそびえ、南アルプス国立公園や奥大井県立自然公園に指定されるなど豊かな自然を誇る一方で、中央構造線と糸魚川～静岡構造線に挟まれ、複雑に断層が交錯する地質条件です。日本海側からと太平洋側から湿った空気が流れ込むとヒートロー【熱的低気圧】現象が起き積乱雲が発達し、降雨も多くなる気象もあり、厳しい自然条件のため、浸食が著しく、山地荒廃が進んでいます。

昭和 30 年代以降、人々の環境保全への関心が高まるなか、静岡県等から流域保全についての要請が出されたことなどに伴い、当該流域の荒廃地を復旧し、豊かな暮らしを実現することを目指して、昭和 41 年度から東京営林局（現在の関東森林管理局）が大井川上流域を対象とした民有林において荒廃地の復旧対策等を行う民有林直轄治山事業を実施することになりました。

平成元年度以降は、組織の編成に伴い静岡営林署（現在の静岡森林管理署）で実施していましたが、平成 13 年度に大井川中流域の榛原川地区を事業区域に加え、新たに発足した関東森林管理局直轄の大井川治山センターが治山事業を実施しています。

2．これまでの取組及び今後の整備方針

大井川流域は、年間降水量が 3,000mm を超え、急流河川であることから、過去には大きな災害に見舞われており、明治 38 年から昭和 40 年までの間には人的被害や家屋全壊などの災害が幾度となく発生しています。

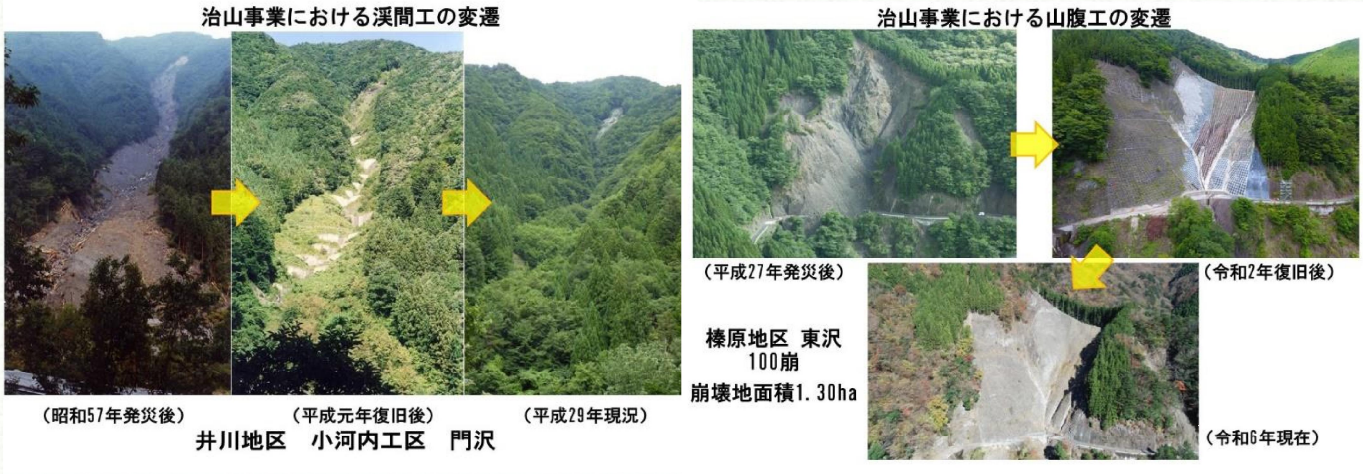
大井川治山センターでは、事業開始以降、荒廃渓流に在る不安定土砂の移動や、浸食を防止・抑制するための渓間工や、崩壊した山腹斜面を安定させ表土の浸食防止を図ること等により、早期に緑化を図る山腹工を計画的に継続して実施してきました。その成果もあって、近年では被害が減少傾向にあり、これまで整備

平成３年（千頭地区）

大雨による大井川の増水(平成３年)

してきた治山施設が一定の効果を発揮しているところです。

また、今後におきましても全体計画に定められた整備目標・整備方針に基づき計画的に事業を実施するとともに、集中豪雨などの自然災害により発生した荒廃地に対しての災害復旧事業を進めるなど、地元自治体ほか地域の要望を踏まえつつ、土地所有者、関係機関との調整を図り、整備を進めてまいります。



3．技術開発

大井川治山センターでは、治山工事施工の中で、新たな工法やコスト縮減に係る工法等の開発及び検証等を行っています。また、ICT 技術の導入に向け、UAV 写真測量及び地上レーザースキャナ測量（TLS 測量）と従来のテープ等を用いたアナログ実測との比較・検証や、衛星通信を活用した遠隔臨場の試行も行っています。

4．おわりに

治山事業は、森林の維持造成を通じて山地に起因する災害から国民の生命・財産を保全し、また、水源のかん養、生活環境の保全・形成等を図る極めて重要な国土保全施策の一つで、安全で安心できる豊かなくらしの実現を図るうえで必要不可欠な事業です。

森林には、土砂崩れなどの災害を防ぐ働きがあり、森林内の樹木をはじめとする植物の根が、土壌をつなぎとめています。治山事業は究極の「ECO-DRR」です。

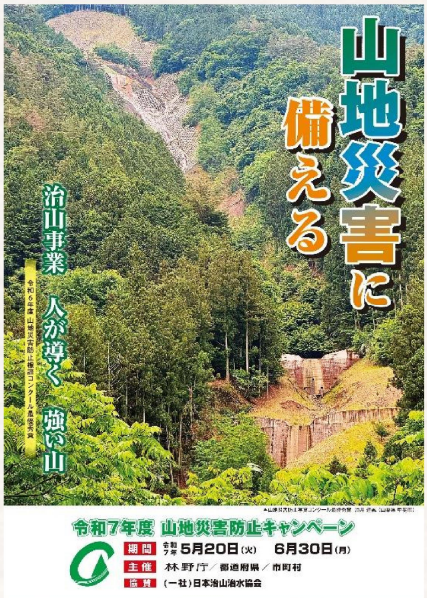
この治山事業を円滑に実施するために、地元自治体をはじめとして土地所有者、地域の皆様の理解や協力が不可欠となります。

このことから、大井川治山センターでは、毎年地元への事業説明会の開催、登山道の清掃活動、地域イベントへの参加、庁舎内で治山施設の模型やパネル展示を行うなど、治山事業の普及啓発活動を積極的に行っています。

今後も引き続き、地元とのつながりを大切にしながら、地域の皆様が安全で安心して暮らせる地域づくりに貢献できるよう取り組んでいきます。

令和７年度山地災害防止キャンペーンの実施について

治山課



キャンペーンポスター

林野庁、各都道府県及び市町村では、山地の崩壊・土石流・地すべり等の山地災害の発生により、人命・財産に甚大な被害が及んでいることに鑑み、山地災害防止に対する国民の理解と関心を深めるとともに、山地災害に対する危機管理体制を強化するため、本格的な梅雨期を前にして山地防災に関する情報収集活動の強化、山地災害危険地区等の周知徹底、避難体制の整備等に寄与する取組を推進し、地域住民の防災意識の高揚に資することを目的として、令和７年５月 20 日から令和７年６月 30 日の間、「山地災害防止キャンペーン」を実施してきました。

関東森林管理局や各森林管理署等でも、ポスターの掲示やパンフレットの配布、ホームページへの掲載等による広報活動の推進や、インターネットを利用した山地災害危険地区などの山地防災情報の周知活動等の強化等に取り組んできました。

これから梅雨末期の集中豪雨や台風時期を迎えるにあたり、引き続き、山地災害危険地区の巡視などを適切に実施し、地域の皆様の安心・安全のため、これら啓蒙活動にも積極的に取り組んでまいります。

今月の表紙

「武尊牧場のレンゲツツジ（写真提供：片品村役場）」
（利根沼田森林管理署）

群馬県北東部に位置する日本百名山の一つ、武尊（ほたか）山の東麓にある武尊牧場では、群馬県の天然記念物に指定されている約１万５千株のレンゲツツジの群生地があります。

６月中旬から下旬にかけて見頃を迎え、標高 1,500m の高原に鮮やかな朱色が広がり、訪れる人々を魅了します。

周辺ではトレッキングのほか、ログハウスやキャンプサイトでのキャンプに加え、近年ではグランピングも楽しむことができ、自然とのふれあいを満喫できる場所となっています。

「第 75 回全国植樹祭」の開催について

埼玉森林管理事務所

「第 75 回全国植樹祭」が 5 月 25 日、秩父ミューズパーク（秩父市・小鹿野町）にて、天皇陛下の御臨席の下、開催されました。当日は全国から約 4,500 名が参加し、「人・森・川 つなげ未来へ 彩の国」をテーマに、健全で豊かな森林を未来へ引き継いでいくことを誓いました。

式典会場の様子

埼玉森林管理事務所は、式典会場内に設置された「おもてなし広場」に出展し、森林・林業に関するパネル展示や樹木漢字クイズを行いました。

埼玉森林管理事務所の出展ブース前で

植樹会場の様子

当日は天候も回復して、時折吹く爽やかな風が心地よい植樹祭日和となりましたが、前日から朝方にかけての降雨で会場の足場がぬかるんでいたため、雨水のかき出しなどブースの設置に苦労しました。その甲斐あってか引っ切りなしに来訪者があり、その訪れてくれたた方々とのやり取りを通じて、森林への関心の高さを改めて感じると同時に、全国植樹祭の意義を改めて感じさせられる貴重な機会になりました。

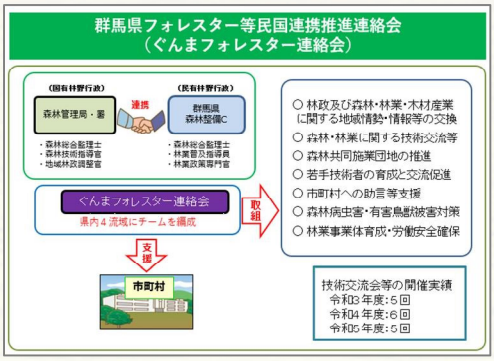
ぐんまフォレスター連絡会　技術交流会「デジタル技術のフル活用で林業イノベーション」を開催

群馬森林管理署
利根沼田森林管理署
吾妻森林管理署

本格的な利用時期を迎えた日本の森林は、収穫で得られた利益を山元に還元し、再造林を進め、森林資源の循環サイクルを構築していく必要があります。一方で、林業は、厳しい地形条件下で、生産性や労働安全性の低さ、担い手不足や高齢化など、様々な課題が山積しています。３Ｋ（きつい・危険・高コスト）林業から脱却するには、デジタル技術を活用し、林業の生産性・収益性・安全性の向上を図ることが不可欠です。

ぐんまフォレスター連絡会（＊）では、これまで「ICT を活用した森林調査」（令和５年度）や「玉ねぎネットによるシカ被害対策」（令和６年度）などの技術交流会を開催してきています。

今回は、「木材生産」（伐って・使うための準備段階）に焦点を当て、デジタル技術を活用して地域の３Ｋ林業から脱却する方法を考察するための技術交流会を開催しました。



『ぐんまフォレスター連絡会』の仕組み

交流会ポスター

＊正式名称「群馬県フォレスター等民国連携推進連絡会」
日　時：令和７年５月 28 日（水）
参加者：森林管理局・署、群馬県、森林整備センター、林業機械化センター、市町村、林業事業体、森林組合や林業関係機関等から 72 名

現在、森林・林業分野においてもデジタル技術の利用が進みつつありますが、まだまだ一部の関係者が試行錯誤を繰り返しながら模索している状態です。また、国有林野、民有林野の事業現場では、それぞれの事情からも大きな隔たりがある状態です。今後、デジタル林業の実現に向けては、これらの点的な取組を地域全体の面的な取組へ繋げ、ステップアップしていくことが重要です。

第１部（午前、みどり市立厚生会館）では、「デジタル林業の可能性について」として、（一社）日本森林技術協会 ICT 林業推進室 西原 和也様のご講義とともに、ICT ハーベスタや木材検知アプリの概要・林業現場での実用方法から、参加者は、自身の属性に応じて地域林業における現状と課題、デジタル技術を用いた今後の方向を考察しました。

第１部会場　講演会の様子

第２部（午後）では、桐生市黒保根町赤面国有林（群馬森林管理署の伐採事業現場）において、請負事業者が事業実行のために利用している ICT ハーベスタの実働から、伐木運集材の高効率な能率作業や高度な労働安全性を体感していただきました。この ICT ハーベスタは、事業の受注者である三山工業株式会社様が当年４月に導入したばかりの最新鋭の機械（林業事業体の購入として全国初）であり、オーダーデータや市場価格を ICT 機器に入力すると、需要者・市場のニーズに応じて、幹一本の価格が最大になるよう自動的に採材する機能が備わっています。

第２部会場　ICT ハーベスタの実働

また、伐採事業で生産・集積したはい積（土場に重ねた丸太の集団）を、タブレット端末で画像を撮るだけで、検知（数量・材積把握）やデータ管理ができる木材検知アプリを利用し、その簡単な操作性を体験していただきました。これまで人の手で一本一本の丸太を計測・記録・集計していた方法と、アプリ使用による操作性や正確性の向上から、林業現場での有効な活用方法を共有しました。

木材検知ソフトの実地体験

民有林野・国有林野関係者の連携方策として技術交流会を開催し、参加者のデジタル林業への関心の高さから、群馬県内の各地域が抱える林業の実態の改善に向けた考察ができました。参加者からは、自身の林業現場において解消すべきボトルネックや、それをデジタル林業によって解決していく手段など様々なご意見が寄せられました。

また、当日の様子は、地元テレビ局や一般紙、業界紙にも採り上げられ、国有林野事業の現場から発信するデジタル技術の効果的な普及展開を図りました。ぐんまフォレスター連絡会では、今後においても群馬県の民国連携枠組みとして、森林・林業・木材産業における需要に応じた事柄をテーマに採り上げ、技術交流会を開催してまいります。引き続き、当会の先進的で活動的な取組にご注目をお願いいたします。

森づくり最前線

日光森林管理署　日光森林事務所　首席森林官　櫻井 崇裕

小田代原の遊歩道から男体山を望む

私が勤務している日光森林事務所は、栃木県の北西部に位置する日光市のうち、旧日光市の国有林約 14,000ha を管理しています。管内には豊かな自然環境と貴重な歴史的・文化的遺産、湧出する豊富な温泉など、恵まれた観光資源が存在します。特に有名なのは、平成 11 年に世界文化遺産に登録された日光東照宮などの建造物群「日光の社寺」、平成 17 年にラムサール条約湿地に登録された戦場ヶ原などを含む 260ha の「奥日光の湿原」、そして、それらを囲むように男体山などの山々から成る東日本有数の山塊「日光連山」です。首都圏からほど近くアクセスも良いことから、四季を通じて変化に富んだ観光・スポーツ・レクリエーションに、国内外から多くの観光客が訪れています。

中禅寺湖畔

竜頭の滝

日光の森林においては、以前からニホンジカ（以下、シカ）による食害が深刻で、稚樹・低木層の消失、さらには立木の樹皮食害による枯死増加など健全な森林更新が阻害されています。また、クマも生息域を拡大しており、クマによる立木の樹皮が剥がされる被害（クマ剥ぎ）も問題となっています。このため、新植する際にはシカの食害を防ぐ対策が必須となっているほか、間伐等の実施後には残存木への剝皮防止対策を行っております。

日光地域では、委託・直営でのシカ捕獲も行っていますが、これらに加え、平成 26 年に多様な森林の維持と生物多様性の保全を目的として「日光地域シカ対策共同体（栃木県、日光市、環境省、日光署による組織）」を設立しました。さらに、捕獲協力に猟友会と、捕獲施設の取扱いに栃木県とそれぞれ協定を結び、各構成機関が共同してシカ対策を推進しています。

小倉山国有林　ヤマザクラとコナラの植付

管内の主な取組みの一つとして、収穫期を迎えたスギなどの人工林が約 8 割を占める小倉山国有林において、景観や生物多様性に配慮した広葉樹林への樹種転換を図るため、令和 6 年度に分散的に皆伐した 2 区画 2.21ha に、ヤマザクラ 400 本と、コナラ 2,950 本の苗木を植栽しました。このヤマザクラについては、小倉山国有林に自生するヤマザクラから種子を採取し、種苗組合に育苗を依頼した苗を植栽しています。また、小倉山では平成 16 年より日本野鳥の会栃木県支部と「多様な活動の森の協定（小倉山野鳥の森）」を締結しており、同会と協賛による野鳥観察会・木工教室のイベント「森林と野鳥に親しむつどい」を年に 2 回春と冬に実施しており、引き続き野鳥が住みやすい森林づくりを進めていきます。

ヤマザクラの種子採取

木工教室　巣箱作りをサポートする筆者